



臨床研究に基づいた 認知症リハビリテーション 理論編×応用治療編セミナー  
老年心理学による集団療法を用いた認知症ケアとリハビリテーション

【選択セミナー】理論編 応用治療編 一日参加

#### ■■■ 講義内容

● タイトル ユニリハ独自のネットワークで全国から集めた、認知症に関する臨床研究データをエビデンスに、実践的アプローチを提供します

#### ● 内容

ユニリハ独自のネットワークで全国から集めた、認知症に関する臨床研究データをエビデンスに、予防でなくリハビリとして治療をメインに実践的アプローチを提供します

#### 【理論編】

認知症を診るためには、脳機能、性格特性の評価が必要で、健常高齢者の心理、行動学を身に着け、相対的に認知症を評価していきます。

上記をだれもが簡単に評価できる評価用紙を開発しました。対象者がどの時代のどういった世界観で生きているかがわかります。

#### 【実技編】

専用の評価用紙を用いて治療を行っていきます。セラピストと対象者を利用して認知行動療法、応用行動分析学などを用いて治療を行い、集団療法へ移行していきます。

## ■■■ 講義スケジュール

### 【理論編】

タイトル 老年心理学による集団療法を用いた認知症ケアとリハビリテーション

#### 内容

- 第1章 高齢者の老年心理学を学ぶ
- 第2章 認知症の評価（心理学が理解できて初めて認知症がわかる）
- 第3章 認知症の治療
- 第4章 セラピストが行う、認知症アプローチと集団療法
- 第5章 動画で見る実技編
- 第6章 あなたが、穏やかな認知症になるために

## ■■■ 講義概要

### 【実技編】

- タイトル 理論編を応用して集団リハビリや集団療法を使って治療を行きましょう
- 内容
  - 第1章 高齢者が歩んできた時代背景と戦争への想い
  - 第2章 レミニセンス・バンクを用いた治療
  - 第3章 対象者が今この時代、どんな世界観で生きているかを治療に生かす
  - 第4章 周囲の関わり方と社会参加への誘導方法
  - 第5章 集団療法の考え方と、実際の集団リハビリの手順、実際の治療場面の紹介
  - 第6章 あなたが、穏やかな認知症になるために

## ■■■ 講義のポイント

### 【実技編】

- タイトル 高齢者の時代背景がわかることで援助者の関わる態度が変わり、その変化が集団療法を介して治療に結びつく
- 内容

今現在、相対している高齢者は団塊の世代や戦争経験のある時代の人たちです。その人たちがどうやって困難を乗り越え今の豊かな時代を築いたのか。そこに関わりのヒントがあります。また、その人によって、今感じている世界観が違っています。それが妄想や幻覚に影響しているのです。それを紐解き介入することで対象者の反応は柔軟なものになり集団への参加を可能にしていくのです。

## ■■■ 受講生の声

- タイトル ずっと拒否や暴力、暴言の強い方が集団療法に参加できるようになりました。
- 内容

対象者 88歳男性。施設入所

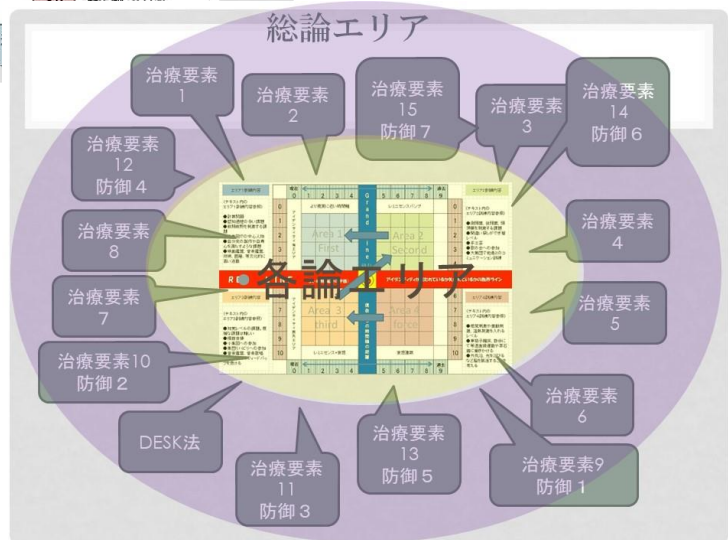
施設入所されており、食事以外はずべての活動に対して拒否されていた方です。常にベッドで臥床して生活しており、不活発から身体機能の低下、心肺機能の低下が懸念されてきたため、離床を勧めましたが拒否が強く、次第に暴言、暴力がひどくなってきてしまいました。

しかし、ユニリハの実践的な応用セミナーを受けることで大きく変化しました。現在の高齢者の歩んできた時代背景を熟知してからの対応や職員全体で一貫した関わりをすることで次第に性格が穏やかになり、ある特定の職員には心を開くようになしました。それを機に少しずつ小集団に関われるようになり、現在ではダイルームでの中心

的人物として人気者になっています

こんなにも人の人生を変えてしまうユニリハの認知症リハビリテーションのアプローチは素晴らしいと感じます。

■■■ 認知症専用評価用紙



■■ 治療は、心理学、行動学、応用行動分析  
などなど多数

### アイデンティティ

ある

- 身体機能は・・・
- 身体運動（散歩、体操）
- 風船バレー
- 囲碁、将棋

精神機能は

- 知覚課題を行う。
- 認知課題へ
- コミュニケーション
- アイデンティティを賦活
- 個別の信頼関係からやがて集団へ促していく

ない

- ひとの記憶があるか
- 時間の記憶があるか
- 場所の記憶があるか

- ・ 風船反応
- ・ あだ名で呼ぶ
- ・ じゃんけん
- ・ 握手

- ・ 感覚入力
- ・ 等速直線運動
- ・ 加速度の入力
- ・ 振動刺激の入力
- ・ 共有体験
- ・ 頭部マッサージ